

## 21 歯科衛生教育における手洗い実習の実施と評価

小野真奈美

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 手洗い実習, 衛生的手洗い, 手指微生物汚染検査

### はじめに

手洗いは、感染を予防するための最も重要な基本手段である。そのため、歯科衛生士を目指す学生は早期にその手技を身につける必要がある。本学科では、感染予防法の中で「衛生的手洗い」「手術時手洗い」「すり込み式消毒」の演習を行っている。今回、衛生的手洗いの効果を確認するため、微生物検査用培地を用いた。その結果から演習方法と手洗い結果の評価について検討した。

### 対象および方法

対象は、本学歯科衛生士学科1年生45名である。方法は、衛生的手洗いの順序に従って液体石けんと流水による手洗い後、ペーパータオルで拭き微生物検査用培地に右手掌を押し付けた。その後、37℃で48時間培養後コロニー形成状態を観察し写真撮影した。そして手指全体のコロニー数をカウントした。さらに、部位別にコロニー形成の有無を観察した。学生は、培養結果を観察し、自身の手洗い効果を評価しレポートを提出した。

### 結果および考察

衛生的手指消毒後の手掌全体のコロニー数は、1個～500個以上と個人差が大きかった。手掌全体で陰性の学生はいなかった。手洗い方法や手洗いミスの多い部位について講義により知識はあったが、初めての手洗い実習であったため、手技レベルが低いことやそのレベルに個人差があるためと思われる。また、手洗いにかけた時間や手荒れの状況なども影響したと考えられる。また、右手手指のどの部位に残りが多いのか明らかにするため、部位別にコロニー形成の有無を評価した所、手のひらにコロニーの形成があった学生が最も多く97.7% (44名)

であった。次いで、第1指が91.1% (41名)、第4指が86.6% (39名)であった。手洗いミスの多い部位は、第1指、指先、指の間と過去の研究から示されている。今回は指先や指の間など細かい判定はできなかったが、手洗いミスが多いとされている部位と同じ傾向にあると思われる。手洗いの順序通りに手洗いたつもりでも、その手技が完全に身につけていないと手洗いミスが多く発生することが示された。1年生から確実な手指消毒法を習得させる指導が必要である。今後は、実習を繰返し行うことで手指衛生に対する意識を高め、手洗いの習慣づけを行っていきたいと考える。

演習後のレポートからは、「しっかり洗ったのに、予想以上に洗い残しがあった」「自分の手洗いミスがどこなのか把握できた」「今後は手洗いミスのあった部位に意識して手洗いを徹底したい」などの感想があり、手洗いミスの把握から今後の手洗い遵守への意欲が高まったことが伺える。さらに「コロニー形成は人それぞれだった」「コロニーの大きさや色に違いがあった」「こんなに細菌がいると思うと怖い」など、普段目で見ることのできない手の細菌を視覚的に確認したことで、手洗いの必要性やその技術習得の必要性を認識するきっかけとなったことが伺える。

### まとめ

衛生的手洗い後のコロニー数は、個人差が大きく手技レベルに差がみられた。手洗いミスが多い部位は手のひらや第1指だった。微生物検査用培地を用いた演習は、手指の細菌を視覚的に確認し、手洗いの必要性やその技術習得の必要性を認識するきっかけとなった。